

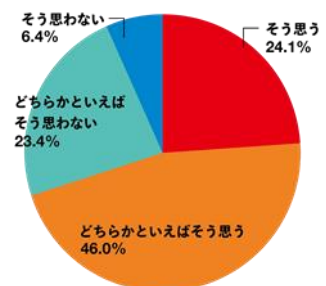
## 第2回化粧品のための動物実験に関する意識調査を実施 化粧品の動物実験に関する否定的な意見が、日本の消費者の過半数を占める

株式会社ラッシュジャパン(本社:神奈川県愛甲郡)は、創立以来、化粧品のための動物実験の廃止を目指した様々な取り組みを行っています。当社では、このたび15歳~69歳の男女3,287名を対象に、第2回化粧品のための動物実験に関する意識調査を実施しました。その結果、化粧品のための動物実験に関する認知は、3割弱だったものの、7割以上の方が「化粧品のために動物を犠牲にたくない」、また、約8割以上の方が「化粧品の動物を使わない安全性試験の代替法開発が重要である」と考えていることが明らかになるなど、消費者における動物実験に対する否定的な態度や、その代替法開発の推進や法規制の支持の割合が高い結果となりました。

この調査は、化粧品のための動物実験廃止に取り組んでいるヒューメイン・ソサイエティー・インターナショナル(Humane Society International)、NPO法人動物実験の廃止を求める会(JAVA)、NPO法人アニマルライツセンター、PEACE(Put an End to Animal Cruelty and Exploitation)の協力により、民間調査会社を通して実施しました。

### ◆ 化粧品のための動物実験に関する消費者の意見

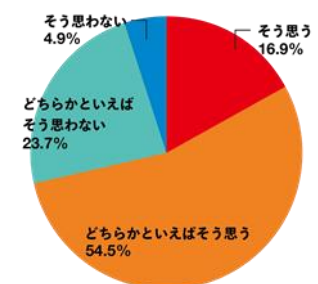
「化粧品の購入の際、重要だと考えることは何ですか?」という問いに対して、回答の全13種の選択肢の中で、「安全性」が60.1%と最も高い数値となった。また、「化粧品のために動物を犠牲にたくない」という内容については、そう思うと回答した人は24.1%、どちらかといえばそう思うが46.0%で、合計70.1%の人が犠牲にたくないと回答した。



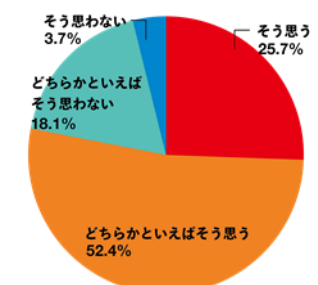
化粧品のために動物を犠牲にたくない

### ◆ 動物を使わない安全性試験の代替法開発に関する回答

「化粧品の開発や安全性試験のための動物実験について聞いたことがありますか?」という問いに対して、28.7%の人が「はい」と回答した。認知度は高くはなかったものの、動物実験に関する情報提供後、「化学物質に対する反応が人とは異なる動物によって、人間が使う化粧品の安全性は確かめられない」という内容について、そう思うと回答した人は16.9%、どちらかといえばそう思うが54.5%で、合計71.4%の人が動物で化粧品の安全性は確認できないと思うと回答した。また、「化粧品に関しては、動物を使わない安全性試験の代替法開発は重要だ」という内容については、そう思うと回答した人は25.7%、どちらかといえばそう思うが52.4%で、合計78.1%の人が、代替法開発が重要であると回答した。



化学物質に対する反応が人とは異なる動物によって、人間が使う化粧品の安全性は確かめられない

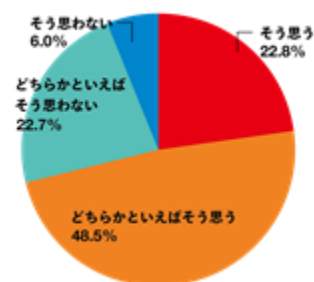


化粧品に関しては、動物を使わない安全性試験の代替法開発は重要だ

※ 代替法とは、動物を使わず、培養した細胞などを使った試験方法のこと。

#### ◆ 消費者が化粧品メーカーに求めること

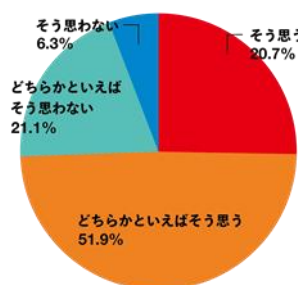
「すでに十分な化粧品や原料が存在するため、動物実験された新規原料は必要ないと感じる」という内容について、そう思うと回答した人が 18.6%、どちらかといえばそう思うが 48.5%で、合計 67.1%の人が動物実験された新規原料は不要と考えていることが分かった。また、「具体的に化粧品の禁止を実現するために、化粧品メーカーは具体的な行動をとるべきだ」という内容については、そう思うと回答した人が 22.8%、どちらかといえばそう思うが 48.5%で、合計 71.3%、さらに「化粧品メーカーに原材料を提供する企業でも、動物実験をなくすために努力するべきだ」という内容は、そう思うと回答した人が 20.7%、どちらかといえばそう思うが 51.9%で、合計 72.6%と、いずれも 7 割以上の人々が化粧品メーカーおよび原材料を提供する企業に、動物実験をなくすための努力を求める回答が多く見られた。



具体的に化粧品の禁止を実現するために、化粧品メーカーは具体的な行動をとるべきだ

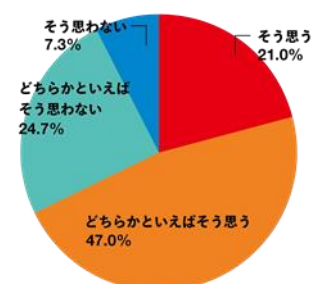
#### ◆ 消費者が行政に求めること

「具体的に化粧品の動物実験の禁止を実現するために、行政は具体的な行動をとるべきだ」という内容について、そう思うと回答した人が 20.7%、どちらかといえばそう思うが 51.9%で、合計 72.6%の人が行政に対して動物実験をなくすための具体的な行動を求める回答が見られた。また、「日本において化粧品のための動物実験を法律で禁止すべき」という内容は、動物実験に関する情報※提供前は、そう思うと回答した人が 14.2%、どちらかといえばそう思うが 37.1%で合計 51.3%だったのが、情報提供後はそう思うと回答した人が 22.7%、どちらかといえばそう思うが 46.9%で合計 69.6%まで上昇し、約 7 割の人が行政に対して、動物実験の法的禁止を支持する姿勢が見られた。

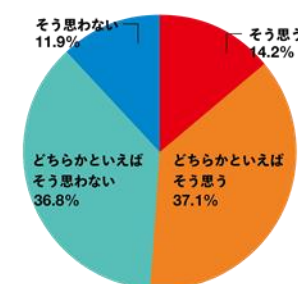


化粧品メーカーに原材料を提供する企業でも、動物実験をなくすために努力するべきだ

※ 動物実験に関する情報とは、具体的な動物実験の目的や実験方法の説明、また国内外における動物実験の実施状況や代替法開発に関する情報、動物実験による安全性が立証できなかった過去の事例などの内容。



具体的に化粧品の動物実験の禁止を実現するために、行政は具体的な行動をとるべきだ



日本において化粧品のための動物実験を法律で禁止すべき

ラッシュジャパンでは、本調査結果を受け、引き続き化粧品のための動物実験の完全廃止を目指した取り組み、および、世論喚起を全国の店舗や商品を通じて行ってまいります。

## 【調査概要】

調査期間： 2016年6月22日～6月24日

調査方法： 民間調査会社によるインターネット調査

調査対象： 15歳～69歳の男女3,287名

※ 性別、年代別で人口構成比に準拠して実施

※ この調査における化粧品には、医薬部外品も含まれる

## 【参考】

### 化粧品のための動物実験に関する現状

毎年、世界中で何十万ものウサギやモルモット、マウス、ラットなどが、化粧品（薬用化粧品を含む）の完成品やその原料の開発にあたって、安全性や有効性を確認するために実験に供されています。中国を除いて、いま世界では化粧品の安全性を確認するための動物実験は義務付けられているわけではありません。そのため、日本でも大手化粧品メーカーを含め、動物実験をせずに化粧品の製造している企業が多数あります。

一方、EU やノルウェー、インド、イスラエルなどでは、化粧品のための動物実験を行うことはもとより、動物実験された化粧品（原料に動物実験されたものを含む）の販売が法的に禁止されるまでに至っています。また、動物実験の信憑性や倫理的観点から、世界中で動物実験に替わる試験方法（代替法）の研究開発が進んでおり、すでに一部の試験では代替法が使われているほか、世界各国で化粧品の動物実験を禁止する動きが進んでいますが、日本では化粧品の動物実験はいまだに法的に許されている状態が続いています。

## 【本調査に関する問い合わせ先】

株式会社ラッシュジャパン

担当： 高橋 麻帆・丸田 千果

TEL: 03-6859-0766 / Email: [lush-pr@lush.co.jp](mailto:lush-pr@lush.co.jp)

## 【報道関係者からのお問い合わせ先】

株式会社ラッシュジャパン

エクスターナルリレーションズ

担当：小山 大作・澤地 泉

TEL: 03-6859-0766 / Email: [lush-pr@lush.co.jp](mailto:lush-pr@lush.co.jp)